

令和元年度 城山東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤として、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい人間を育成する。

具体目標（子ども像）

- 心豊かで思いやりのある子（豊かな心）
 - よく考え進んで学ぶ子（確かな学力と創造性）
 - 健康で明るい子（たくましい健やかな体力）
 - 根気強くがんばる子（あふれる気力・実践力）
- 〈スローガン〉 「ふれあい つながり 学び合う 城山東小学校」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人の能力を伸ばし未来をたくましく生き抜くための基礎となる力を培うために、保護者や地域との連携を図りながら、教職員が協働して、知・徳・体の調和のとれた教育を推進する。

(1) 目指す学校像

- ・ 温かさと活気に満ちた学校
- ・ 安心・安全な学校
- ・ 地域とともにある学校

(2) 目指す教職員像

- ・ 教育公務員としての自覚と教育的愛情・使命感をもった教職員
- ・ 明るく人間性豊かで、児童を第一に考え協働する教職員
- ・ 先見性と計画性を備え、効率よく職務を遂行する教職員
- ・ 向上心をもち学び続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 未来をたくましく生き抜く力の育成を目指し、「学習指導要領」「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨に基づきながら、本校児童の実態を踏まえて、「知・徳・体」の調和のとれた教育活動を推進する。
- (2) 人権を尊重する心の醸成を基盤とし、道徳教育・読書活動・様々な体験活動等を通して、心の教育を推進する。
- (3) 「自ら考え学び合う子」を育成するために、学業指導を基盤に、学習意欲を高めつつ、知識・技能を確実に身に付け、読解力・思考力・表現力を育む教育活動を推進する。
- (4) 健康で安全に楽しく過ごせて居がいのある学校づくりを目指し、個に応じた指導の充実と、危機管理意識の高揚・安全体制の強化に努める。
- (5) 教職員が、倫理観と使命感をもち、資質・能力の向上のために自己研鑽に努め、児童一人一人を大切に教育活動を展開し、信頼を得られるように努める。
- (6) 教職員が健康でやりがいをもって勤務し、質の高い教育が展開できるように、働き方改革の視点に立ち、職場環境改善の取組を推進する。
- (7) 城山地域学校園小中一貫校と、魅力ある学校づくり地域協議会の組織を活用し、地域とともにある学校づくりを推進する。

〔城山地域学校園教育ビジョン〕ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園
「自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成
《スローガン》 みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則並びに平成32年に全面実施される小学校学習指導要領、「教育ビジョンとちぎ 2016-2020」・市教育委員会の方針や「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」を踏まえ、特色ある教育の展開が図れるよう編成する。
- (2) 教育目標、経営方針、努力点等の示すところにより、学校の歴史や伝統、地域の実情、学校や児童の実態を十分考慮し、調和と統一のある編成に努める。
- (3) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、心身ともに健康な児童を育むことを目指して編成する。
- (4) 国際社会に生きる自覚と広い視野をもった人間形成を目指し、個性の尊重を基に、広い心・豊かな創造力をもった児童の育成を目指して編成する。
- (5) 日課表の弾力的運用や強化週間を位置付け、学力の水準を増進する指導法の一層の充実に努め、一人一人の児童を大切に教育活動が展開できるよう配慮する。

- (6) 小中一貫教育・地域学校園のスローガンのもと、自他を尊重し互いに高め合い、明るく元気にあいさつのできる児童の育成を目指して編成する。
- (7) 学校、家庭、地域の連携を図り、地域とともにある学校づくりを目指した教育活動を推進し、開かれた教育課程の編成を図る。
- (8) 前年度の成果・反省を生かし、教育活動に創意工夫を加えて、児童の主体的、実践的活動を十分に生かせるように配慮するとともに、目標の重点化による教育活動の精選を図り、児童と向き合う時間や教材研究の時間を産み出し、教育の質を向上させる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

○児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための指導体制の確立と校内組織の運用

【学 習 指 導】

○つながりの中で、自ら考え学び合う子どもの育成

【児 童 生 徒 指 導】

○人とのかかわりを大切にし、豊かな心を育てようとする子どもの育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

○自他の生命を大切にし、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中、話をしっかり聞いたり、発表するなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①発表や挙手の仕方、ノートの取り方等、教職員及び児童が「学習のきまり」を守る取組を推進する。 ②「自ら考え学び合う子」を育成するために、伝え合い、聞き合い、認め合う授業づくりを実践するなどの主体的・対話的な授業の実現に向けた取組を行う。 ③児童の学習意欲を高めるため、教材教具や指導方法について教職員間で紹介し合ったり、学び合ったりして、工夫・改善を行う。	B	【達成状況】 A 1⇒児童の肯定的回答率が 94.7%（目標値比+4.9%） ① 学習指導主任が中心となって、「学習のきまり」守らせる指導を粘り強く行った。 ② 1日1回はペアやグループなどの学習形態を工夫しながら対話的な学習を取り入れる共通実践を行った。 ③ 教職員間で教材教具の工夫や指導方法などについて情報交換を行うことができた。 【次年度の方針】 ① 授業の受け方やノートの取り方など、基本的な学習習慣の確立の指導を継続して行う。 ② 授業で身に付けたい資質・能力を育むために、対話的な学習の充実を図っていく。 ③ 今後も教職員間で教材教具や指導方法などについて、情報交換を行うなどして、指導の充実に努めていく。

A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①伝え合う力や自己を見つめる力を養えるよう、「考え、議論する」授業展開を工夫し、「特別の教科 道徳」の授業の充実を図る。 ②縦割り班活動や縦割り班清掃、幼稚園・保育園との異年齢との交流などを通して、児童の思いやりの心を育む。 ③各学級の「ふれあいコーナー」などを活用し、児童が認め合うことにより、意欲を高める。 ④全教育活動を通して、人権意識の醸成を図り、児童一人一人が互いに思いやり、相手の立場に立って物事が考えられるようにする。	【達成状況】 A 2⇒児童の肯定的回答率が 80.4%（目標値比－4.6%） ① 本校の今年度の学校課題研究に位置付け、全職員で要請訪問に取り組むなど、授業づくりについて理解が深まった。 ② 縦割り班活動や幼小連携に係る取組の充実を図ることができた。 ③ 全学級において、「ふれあいコーナー」に児童のよさなどを認め合う取組を行うことができた。 ④ 児童が相手の立場に立って物事を考えられるよう、トラブルなどへの対応を丁寧に行うことができた。 【次年度の方針】 ① 今年度研究を深めた成果を生かしながら取組を進める。 ② 縦割り班活動の日を増やし、さらに異年齢の児童との交流を充実させる。 ③ 「ふれあいコーナー」を学級活動の授業の充実を生かしていく。 ④ 相手の立場を考えた言動など、人権意識の醸成を図っていく。
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①生活のきまり（「よい子のやくそく」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同一歩調で連携して取り組む。 ②月の目標に基づき各学級で生活目標を考え、朝の会や帰りの会等で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高める。	【達成状況】 A 3⇒児童の肯定的回答率が 70.3%（目標値比－9.7%） ① 一部の児童が清掃開始時間を守れなかったり、廊下を走ってしまうなど、きまりが守れない場面も見られた。 ② 月の目標を示してはいるものの、十分に周知が図られていない状況も見られた。 【次年度の方針】 ① 児童指導強化週間を設定し、廊下の歩行など具体的に改善すべきことについて、代表委員や教職員で共通に取り組んでいく。 ② 児童が校内放送を活用して呼びかけをするなどの取組を進めていく。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①継続的な指導に加え、PTA、「地域協議会」と連携し、「大人から進んであいさつする」活動呼びかける。 ②長期休業明け（5、9、10、1月）に代表委員を中心にした<u>あいさつ運動週間</u>を実施する。 ③<u>下校時の一斉あいさつ</u>を高学年主導で行うことで、あいさつの意識付けを図る。	【達成状況】 A 4⇒児童の肯定的回答率が 88.5%（目標値比＋3.5%） ① 地域協議会と連携した取組は行えたが、PTAとは連携できなかった。 ② 代表委員が中心としたあいさつ運動は多くの児童が参加することができた。 ③ 毎日、高学年主導で行うことができた。 【次年度の方針】 ① PTAとの連携を検討し、取組を進めていく。 ② <u>取組の工夫改善を図りながら、継続して実施していく。</u> ③ <u>継続して実施していく。</u>

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的割合 80% 以上	①学級活動の授業等で学期や年度の始まりに自分の目標を考えたり、途中で目標を更新したり、終わりに自らの成長や変容を振り返る活動を実施する。 ②各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組むことの大切さに気付かせるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。	【達成状況】 A 5⇒児童の肯定的回答率が 90.5%（目標値比 +10.5%） ① 学級活動の授業や、教育相談などにおいて、自己の成長を振り返ることができた。 ② 授業のみならず、陸上競技大会など目標をもって努力した児童を賞賛した。 【次年度の方針】 ① キャリア・パスポートを有効に活用しながら継続して実施していく。 ② 児童が目標をもって取り組める場面を意図的に設定していく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的割合 85% 以上	①交通安全教室や自転車免許事業などを通して、登下校指導体制の充実を図るとともに定期的に避難訓練を実施するなど、児童が自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。 ②学校栄養士が全校で食育指導を行うことで、児童の食への関心・意欲を高めるように努めるとともに、積極的な情報発信に努める。 ③給食後の歯磨き指導では、歯磨きDVDを活用し、歯磨きの順序や磨き方などを随時指導し習慣化を図る。 ④生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかける。	【達成状況】 A 6⇒児童の肯定的回答率が 91.1%（目標値比 +6.1%） ① 竜巻を想定した避難訓練では、児童が安全に判断して行動できるよう、実施方法を工夫して実施できた。 ② 定期的にランチルームで食育指導を行うことができた。 ③ 随時指導し、習慣化が図られた。 ④ 正しい姿勢については、養護教諭が T2 で学級活動の授業で指導するなど、取組の充実が図られた。 【次年度の方針】 ① 安全な登下校や、避難訓練の充実について継続して取り組んでいく。 ② 継続して実施していく。 ③ 継続して実施していく。 ④ 継続して実施していく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的割合 80% 以上	①児童が自分や他者の生き方に関心をもち、未来を切り開いていこうとする態度を育むため、総合的な学習の時間において、キャリア教育の取組として「12歳のハローワーク」を実施する。 ②係活動や委員会活動の充実を図り、児童の自己有用感を育成する。	【達成状況】 A 7⇒児童の肯定的回答率が 90.5%（目標値比 +10.5%） ① 6年の総合的な学習の時間で、自己の生き方に関心をもち、進んで職業について調べることができた。 ② 係活動や委員会活動では、一人一人役割をもって取り組むことができた。 【次年度の方針】 ① 今年度の取組を評価し、工夫改善を行っていく。 ② 児童の創意や提案を生かしながら、取組を継続していく。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は外国語活動の授業やALTの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的割合 80% 以上	①児童が英語を使って自分の気持ちや考えなどを伝えることができるよう、ALTを活用した授業の充実を図る。 ②児童が英語を使って簡単なコミュニケーションができるよう、給食や昼休みなどにおいてALTと触れ合う時間を確保する。	【達成状況】 A 8⇒児童の肯定的回答率が 94.7%（目標値比 -1.5%） ① ALTと連携を図り、楽しく英語を用いてコミュニケーションをとることができた。 ② 給食や昼休みなどにおいて、ALTと触れ合うことができた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 継続して実施していく。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上	①社会科副読本を活用して、宇都宮の様子や産業を知る学習を通して、宇都宮の特色やよさについて理解させる。 ②「小4施設めぐり」や生活科「町たんけん」、「大谷プラン（歩け歩け遠足）」等を通して、宇都宮の暮らしを支える人々について関心を高める。	【達成状況】 A9⇒児童の肯定的回答率が 84.8%（目標値比 +4.8%） ① 「宇都宮学」コーナーを設置し、宇都宮のよさを知らせることができた。 ① 宇都宮の産業や働く人について、関心を高めることができた。 【次年度の方針】 ① 3・4年では社会科副読本を活用し、「宇都宮学」を指導していく。 ② 5・6年では副読本を活用し、「宇都宮学」を指導していく。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上	①情報活用能力の育成を図るため、タブレットパソコンや学校図書館を活用した授業を実施する。 ②読書に関する意識向上のための読書コーナーの設置等を計画的に行う。	【達成状況】 A10⇒児童の肯定的回答率が 83.5%（目標値比 +3.5%） ① 学校図書館を学習センターとして有効活用しながら授業を実施できた。 ② 季節に応じた図書の紹介や家読コーナーなど読書に関する意識向上のため、様々な取組が行われた。 【次年度の方針】 ① タブレットパソコンを有効に活用した授業づくりを研究する。 ② 継続して実施していく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的割合 85%以上	①児童に授業や学校行事で高齢者や学校支援ボランティアとかかわらせることにより、感謝の気持ちをもたせる。 ②総合的な学習の時間において、福祉教育の取組として、高齢者福祉施設の訪問などを実施する。	【達成状況】 A11⇒児童の肯定的回答率が 80.4%（目標値比 -4.6%） ① 「感謝の会」において、ボランティアの方々に感謝の気持ちを高めることができた。 ② 総合的な学習の時間において、高齢者体験や施設訪問などを行った。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 継続して実施していく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上	①持続可能な社会の担い手を育むため、総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施する。 ②避難訓練時に、世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ、防災について関心を持たせる。 ③生活科、理科で植物を育てる学習の際に意識付けを図る。 ④給食時のゴミの分別や牛乳パックリサイクルを行うことで、持続可能な社会に貢献している意識を持たせる。	【達成状況】 A12⇒児童の肯定的回答率が 73.7%（目標値比 -6.3%） ① 総合的な学習の時間で環境教育に関わる学習を実施した。 ② 地震や竜巻などの現象について関心をもたせることができた。 ③ 植物を育てる学習は実施しているが、意識付けは十分ではなかった。 ④ 家庭科の授業でリサイクルについて学習するとともに、ゴミの分別などリサイクルの取組を実施し、意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ① 「持続可能な社会」との関連を図りながら取組を進めていく。 ② 継続して実施していく。 ③ 「持続可能な社会」との関連を図りながら取組を進めていく。 ④ 継続して実施していく。

目 指 す 学 校 の 姿	B 1 児童は進んで本を読んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、進んで本を読んだり、調べ学習等で活用したりしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①読書の時間を位置付けたり、定期的にボランティアによる読み聞かせを行ったりして、読書に対する興味関心を高める。 ②市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読りレーの実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。	B 【達成状況】 B 1⇒児童の肯定的回答率が 83.5%（目標値比+3.5%） ① 定期的な読み聞かせやビブリオバトルなどの取組により、読書に対する興味・関心を高めることができた。 ② 家読の推進など、家庭との連携を図りながら指導の充実に努めた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 継続して実施していく。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①校内支援委員会を開催し、特別な教育的支援が必要な児童についての情報共有を図り、指導方法や支援方法について検討する。 ②児童の実態に応じて、かがやきルームにおける指導の充実や、特別支援学級の児童が通常学級へ交流及び共同学習を行うなど、取組の充実を図る。 ③2週間に1回、児童に関する情報交換を行い、共通理解を図る。	B 【達成状況】 A13⇒教職員の肯定的回答率が 100%（目標値比+20.0%） ① 校内支援委員会において、検討することができた。 ② かがやきルームにおける指導では、指導員と担任が連絡を密に行い、効果的に行うことができた。 ③ 共通理解を図ることができた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 今後も個に応じた支援ができるよう努めていく。 ③ 継続して実施していく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①全職員が改訂版「本校いじめ防止対策基本方針」について共通理解を図るとともに、言葉によるいじめの未然防止の取組の充実、初期段階からの組織的な対応の徹底など、教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを指導する。 ②強化期間における取組や「いじめ0集会」等の工夫を行うとともに、家庭・地域とより連携を深めながら指導に当たるとともに、実施前後に学年だより等で情報発信する。 ③教育相談やアンケートで実態を把握し、気になることは教職員で共有し、速やかに対応する。	B 【達成状況】 A14⇒児童の肯定的回答率が 98.1%（目標値比+13.1%） ① 「いじめ防止対策基本方針」の理解が深まった。 ② 5年生を中心に「いじめ0集会」を計画・実施し、いじめ撲滅に向けて意識を高めることができた。 ③ 児童指導面で気になることは、教職員で情報を共有し、指導に生かすことができた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 今年度の取組を評価し、工夫改善を行っていく。 ③ 継続して実施していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励ましあうクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①「<u>城山東キラリ賞</u>」や「<u>宮っ子心の教育表彰</u>」を活用しながら、<u>日頃から認め励ます教育を推進する。</u> ②不登校が心配される児童については、定期的に情報交換を実施し、早期対応を図る。 ③子どもが学校に行きたくなくなる行事、活動が教育課程に計画的に配置されている。	B 【達成状況】 A15⇒児童の肯定的回答率が 92.4%（目標値比+7.4%） ① 「城山東キラリ賞」などで、認め励ます教育を進めることができた。 ② SCから助言を受けながら、保護者とともに対応を検討し、進めることができた。 ③ 遠足や集団宿泊の行事、クラブ活動など、児童は楽しんで活動していた。 【次年度の方針】 ① <u>継続して実施していく。</u> ② 継続して実施していく。 ③ クラブ活動においては、児童の意見を参考にしながら、魅力ある活動を検討していく。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①外国人児童が円滑に学校に編入学し、学校生活を送ることができるよう、受け入れ体制の確立を図る。 ②必要に応じて、はばたき教室への通級や日本語指導講師等の活用等の情報収集等を行う。	B	【達成状況】 A16⇒教職員の肯定的回答率が 100%（目標値比+20.0%） ① 該当する児童がいなかった。 ② 該当する児童がいなかった。 【次年度の方針】 ① 該当する児童がいる場合は、受け入れ体制の確立を図っていく。 ② 必要とする児童がいる場合には、情報収集等を適切に行っていく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童同士や教師と児童の温かなつながりがある、居がいのある学級経営を基盤として、自己有用感と自己実現の喜びを味わうことができる教育活動を実践する。 ②「東小タイム」を中心に、集団で遊ぶ機会をもたせ、よりよい人間関係づくりをする。 ③縦割り班活動を推進し、児童同士の交流を深める。	A	【達成状況】 A17⇒児童の肯定的回答率が 71.5%（目標値比-8.5%） ① 学級活動の授業や朝の会・帰りの会などで自己有用感を高められるような取組を行ってきた。 ② 「東小タイム」では、学級の人間関係づくりに生かすことができた。 ③ 上級生は意欲的に下級生の面倒を見ることができた。 【次年度の方針】 ① 更に自己有用感が向上できるよう、学級活動の充実などに努めていく。 ② 運動的な活動を取り入れるなど、活動内容を工夫していく。 ③ 縦割り班活動の時間を増やし、児童同士の交流をさらに深めていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①日々の授業がより分かりやすくきめ細やかなものとなるよう、「宇都宮モデル」を活用して主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ・ねらいの明確な提示 ・まとめ、振り返り活動の充実 ・学習形態の工夫 ②朝の学習「ぐんぐんタイム」などにより、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 ③学力・学習状況調査等の結果に基づく授業改善を図る。	B	【達成状況】 A18⇒児童の肯定的回答率が 93.0%（目標値比+8.0%） ① 対話的な学習を 1日1回は行うよう、取り組むことができた。 ② ぐんぐんタイムでは、全職員の協力体制のもと、基礎的・基本的な内容だけでなく、思考力を育成するためにパワーアップ問題として活用問題も実施することができた。 ③ 各学級の課題を分析し、指導に生かすことができた。 【次年度の方針】 ① さらに主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいく。 ② 継続して実施していく。 ③ 継続して実施していく。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①学校図書館司書、学校栄養職員、学力向上非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携・協働しながら効率的・効果的に業務を進めるように努める。 ②「チーム城山東」の一員として、報告・連絡・相談を確実に実施するとともに、互いに助け合える雰囲気づくりに努める。	B	【達成状況】 A19⇒教職員の肯定的回答率が 100%（目標値比+15.0%） ① 全ての教職員が一丸となり、高い協働性のもと、学校経営計画の具現化に向けて、効果的に業務を行うことができた。 ② 困ったことは相談し合ったり、わからないことは教え合ったり、互いに助け合う雰囲気が醸成された。 【次年度の方針】 ① 継続して取り組んでいく。 ② 継続して助け合える雰囲気づくりに努めていく。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①学校行事の後には振り返りを実施し、次回に向けて効率的な実施方法等について検討するとともに、精選及び校務の効率化により、児童と向き合う時間を確保する。 ②出退勤の時間を意識し、効率的な業務遂行に努めるとともに、リフレッシュディを確実に実施する。 ③学級事務支援員と連携協働しながら、効率的、効果的に業務を進めるように努める。	【達成状況】 A20⇒教職員の肯定的回答率が 94.7% (目標値比+14.7%) ① プール清掃や、外部講師へのお礼の手紙など精選を図った。 ② 個人が決めたリフレッシュディの実施に努めることができた。 ③ 学級事務支援員が宿題の丸付けなどを行うことにより、担任の負担が大幅に減少した。 【次年度の方針】 ① さらに精選及び公務の効率化に努めていく。 ② 継続実施していく。 ③ さらに学級事務支援員との連携を図り、担任の負担軽減を図っていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①地域学校園教育ビジョンの具現化を図るため、各部会・教科部会の活動の充実を図り、園内の学校で共通した取組を実施する。 ②冒険活動における小小・小中の交流や、あいさつ運動における小中の交流を実施し、情報を発信する。 ③地域学校園内で授業を公開し、授業の充実や教職員の相互理解を図る。	【達成状況】 A21⇒教職員の肯定的回答率が 100% (目標値比+20.0%) ① 地域学校園各部会等の会議において、決定した取組を行った。 ② 小・中学校間の交流を行い、学校だよりなどで発信できた。 ③ 道徳の要請訪問の授業において、授業を公開し、他校の教員にも研究協議にも加わってもらった。 【次年度の方針】 ① 継続実施していく。 ② 継続実施していく。 ③ 継続実施していく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①校外学習、地域とのふれあい学習、農園活動、教科等（生活科、図画工作科、家庭科、総合的な学習の時間）などにおいて、地域人材・施設・文化財を積極的に活用する。 ②給食に地域の食材を積極的に取り入れ、啓発を進める。	【達成状況】 A22⇒保護者の肯定的回答率が 88.9% (目標値比+8.9%) ① 豊かな環境を生かして、さつまいも堀りなどの農園活動を行うことができた。また、地域の特色をもとに作成した本校マスコットキャラクターを作成し、様々な教育活動に生かすことができた。 ② 地域の食材を積極的に取り入れるとともに、給食だよりや校内放送で周知を図った。 【次年度の方針】 ① 教職員や地域協議会委員に意見を聞きながら、地域人材・施設・文化財の活用を継続実施していく。 ② 継続実施していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①地域の方々、学習ボランティアとの交流や、企業及び関係諸機関と連携した授業を、各学年とも積極的に計画し実施する。「地域協議会」の趣旨を生かしたボランティア募集やPR活動等の活性化により、協力者層の拡大に努める。 ②「地域とともにある学校」の具現化を図るため、家庭や地域と連携・協力した取組を充実させるとともに、情報を積極的に発信する。	【達成状況】 A23⇒保護者の肯定的回答率が 88.9% (目標値比+8.9%) ① 手縫い・木工・昔遊び・昔の道具などのボランティアの方々、石材会社やいちご栽培を営む会社などの企業の方々と連携・協力して充実した授業を行うことができた。 ② PTA役員とともにPTA文化祭の見直しを行い、児童・保護者共に楽しく取り組める活動を取り入れた。 【次年度の方針】 ① 地域コーディネーターを核として、学校と家庭・地域・企業等の連携を深めていく。 ② 地域協議会から述べられた学校運営に係る意見を生かしていけるよう、進めていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①児童生徒の安全な学習環境の確保を図るため、施設・設備、器具・用具などの定期的な安全点検を実施し、安全で快適な学校づくりに努める。 ②運動会や感謝の会などの学校行事の前後など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。	【達成状況】 A24⇒保護者の肯定的回答率が 88.8% (目標値比+8.8%) ① 定期的に点検を実施し、安全を確保することができた。 ② 学校利用団体が体育館や校庭を快適に使用できるよう、調整を行った。 【次年度の方針】 ① 継続実施していく。 ② 継続実施していく。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上	①パソコン室において、タブレット型パソコンなどのICT機器等を授業で有効に活用できるよう環境を整備する。 ②学校図書館において、学習センター、情報センターとして、授業の目的にあった図書資料が検索できる環境を整備する。	【達成状況】 A25⇒児童の肯定的回答率が 83.5% (目標値比+3.5%) ① プログラミング教材を有効活用できるよう、校内研修を行った。 ② 授業で活用しやすいよう、図書資料を整理し、環境整備に努めた。 【次年度の方針】 ① タブレット型パソコンやプログラミング教材などを活用しやすくなるよう整備していく。 ② 継続実施していく。

本校の特色・課題等	B 2 教職員は授業を見せ合うことで、指導力の向上につなげている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「教職員は授業を見せ合うことで指導力の向上に努めている。」 ⇒教職員の肯定的割合 80%以上	①「一人一授業」などの授業を見せ合う取組を実施し、授業力の向上に努める。 ②教育専門職にふさわしい資質・能力の向上のために、校内研修の計画的な実施と自己研鑽に努める。 ③外部講師等を活用した教職員研修を実施するなど、教員の指導力の向上に努める。	B 【達成状況】 B 2⇒教職員の肯定的回答率が 100%（目標値比+20.0%） ① 「一人一授業」の取り組みでは、道徳の授業実践を行った。 ② 計画的に校内研修を行うことができた。 ③ 大学教授や市教委指導主事の指導を受けながら、充実した研修が実施できた。 【次年度の方針】 ① <u>学校課題に基づき研究テーマを決めて共通実践を進めていく。</u> ② 継続実施していく。 ③ 継続実施していく。
	B 3 教職員は「予防的対応」「対処的対応」など、危機管理に努めている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「学校は、児童の安全確保に努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①緊急時の対応、日常の安全管理等、危機管理についてマニュアルに基づき、教職員が緊急時すぐに対応できるようにするとともに、随時、マニュアルの点検、見直しを行う。 ②予防的対応の充実を図るため、全教職員の危機管理意識の高揚を図り、危機管理に関する情報交換を日常的に行う。	B 【達成状況】 B 3⇒保護者の肯定的回答率が 85.4%（目標値比+5.4%） ① 避難者初期支援マニュアルの改訂を行った。 ② 危機管理意識の高揚を図るため、コンプライアンス遵守に係る研修を行った。 【次年度の方針】 ① 今後も継続実施していく。 ② 日常的に情報交換を行っていく。
	B 4 児童は、地域の特色やよさに気付いている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、進んで地域の学習に取り組み、地域のよさに気付いている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「大谷プラン」（歩け歩け遠足）、2年町探検、4年「城山東安全隊が行く」、6年「城山の魅力発信」などにより、地域の特色やよさに気付かせるとともに、情報を発信する学習を推進する。 ②お世話になった地域の方に、感謝の気持ちを育む「感謝の会」の充実を図る。	B 【達成状況】 B 4⇒児童の肯定的回答率が 74.1%（目標値比-5.9%） ① 「大谷プラン」（歩け歩け遠足）では、児童は地域の方と触れ合う中で、大谷石文化や大谷の産業などのについての興味を更に高めることができた。 ② 花育活動を取り入れながら充実を図った。 【次年度の方針】 ① 「大谷プランを」（歩け歩け遠足）を本校の特色として更なる充実を図っていく。 ② 継続実施していく。
	B 5 教職員は、児童理解を基盤に学級経営の充実を図り、学級内の人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「児童は、学級の友達と遊んだり協力したりして助け合っている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①Q-Uテスト等を有効活用し、児童理解と信頼関係に根差した居がいのある学級づくりを目指していく。 ②各学級に「ふれあいコーナー」を設置し、児童相互の認め合いの場として活用する。 ③互いに励ましあう言葉など、温かい言葉が使えるよう常時指導する。 ④児童のよさや成長など、小さな気付きを保護者に伝える。	B 【達成状況】 B 5⇒児童の肯定的回答率が 88.0%（目標値比+3.0%） ① 教員間の情報交換をもとに、児童理解に努め、学級経営の充実に努めた。 ② 「ふれあいコーナー」で児童の良さを認めあうことができた。 ③ 温かい言葉が使えるよう、常時粘り強く指導を行った。 ④ 保護者との連絡を密にし、情報の共有に努めた。 【次年度の方針】 ① 更にQ-Uテストを学級づくりに生かしていく。 ② 継続実施していく。 ③ 継続実施していく。 ④ 継続実施していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

半分以上の評価項目において、全ての評価対象において80%以上の肯定的回答を得ることができた（全30項目中16項目）。また、数値目標を設定した評価対象の回答については、全30項目中23項目で目標値を達成することができた（達成率76.6%）。

【目指す児童の姿】

・A1「進んで学習に取り組む」については、教職員94.7%、保護者92.9%、児童89.9%と高評価であった。学習指導主任が中心となり、全職員によるきめ細やかな取組を継続実施してきた成果であると考えられる。今後とも、教職員間で協力し合い、学習指導の充実に向けた共通実践を行うことにより、児童の学習意欲の向上を図っていく。

・A3「きまりやマナーを守って生活」については、保護者は93.0%の高評価に対し、児童は70.3%であり、教職員、児童ともに10ポイント以上低下した。決まりやマナーを守らせる指導について共通理解を図り、代表委員会による主体的な活動を促すことなどにより、自らきまりやマナーを守ろうとする児童を育てていく。

・A4「あいさつ」については、教職員は94.7%、児童は88.5%の高評価に対し、保護者は72.2%、地域住民は60.0%であった。今後も家庭や地域と連携しながらあいさつの重要性を理解させ、誰にでも気持ちよくあいさつができる児童を育てていく。

【目指す学校の姿】

・A17「学校は明るくいいきとした雰囲気」については、教職員94.7%、保護者80.7%に対して、児童は71.5%であった。なお児童は昨年度と比較すると-20.9%であった。学級活動や縦割り班活動の充実などにより、自己有用感を高めながら、活気があり明るくいいきとした学校づくりに努めていく。

・A18「分かる授業やきめ細やかな指導」については、教職員100%、保護者85.9%、児童93.0%と高評価であった。今後とも、更に基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むことにより、学力向上に繋げられるよう指導の充実にも努めていく。

【本校の特色・課題】

・B4「地域の特色やよさ」については、教職員94.1%、保護者86.4%に対して、児童は74.1%であった。なお児童は昨年度と比較すると-14.9%であった。「大谷プラン」（歩け歩け遠足）は本校の特色であり、重点化を図っている活動であるが、より児童に活動前に課題意識を高めたり、活動後に振り返りを丁寧に行わせるなど、指導内容や方法について工夫改善しながら継続して推進を図っていく。

7 学校関係者評価

【学校が行った自己評価について】

・適切である。今後も目標の達成を図るための具体的な取組に期待する。

【英語教育について】

・外国語活動の時間や休み時間、給食時などALTとの触れ合いを通して、英語に親しむ活動を実施しているとのことであるが、次年度から外国語科として教科化されるので、さらに指導の充実が図れるとよい。

【持続可能な社会に対応する教育の推進について】

・SDGSが社会でも問題になっている。環境教育などはすでに社会や生活科で実施しているとのことであるが、より「持続可能な社会」の視点をもって取り組むとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

「児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための指導体制の確立と校内組織の運用」の重点目標のもと、「チーム城山東」として、教職員が助け合い・学び合いを通じた資質・能力の育成及びチーム力の向上、地域の教育資源を活用した特色ある学校づくり、地域とともにある学校づくりなどに努めてきた。今後とも、これらの取組を継続実施するとともに、教職員の働き方改革を推進しながら、温かさと活気に満ちた学校づくりに努めていく。

【学習指導】

「つながりの中で、自ら考え学び合う子どもの育成」の重点目標のもと、道徳科の授業づくりについて、対話的な学びの視点を取り入れながら教材を工夫して授業研究を行った。また、わかる・できる・楽しい授業の展開、基礎・基本の定着、

「読解力・思考力・表現力の育成，学習意欲の向上などに向け，学習指導の充実に向けたきめの細やかな取組を行うことができた。今後も，これらの取組を継続実施するとともに，カリキュラム・マネジメントの充実に努めながら，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取組を進めていく。

【児童生徒指導】

「人とのかかわりを大切にし，豊かな心を育てようとする子どもの育成」の重点目標のもと，あいさつ促進，思いやりの心の育成，自己有用感の高揚，いじめゼロの推進などに向け，児童の主体的な取組の充実に努めてきた。今後も，これらの取組を継続実施するとともに，児童の自己有用感の高揚が一層図れるよう努めていく。

【健康（体力）・保健・食・安全】

「自他の生命を大切にし，進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成」の重点目標のもと，自他の健康管理，体力の向上，食育の推進，安全指導の推進などに向け，児童が自ら考え，主体的に行動できるよう実践力を高める取組の充実に努めてきた。今後も，これらの取組を継続実施するとともに，更なる体力の向上に係る取組を検討し，進めていく。